明治実業家列伝⑲

八木久兵衛

仙台市博物館 市史編さん室長　菅野 正道

紅屋からのスタート

動物園や遊園地があり、また仙台有数の住宅団地が広がる八木山。この地名の由来をご存じでしょうか？ 年号が昭和に変わった頃、越路山と呼ばれていたこの一帯を所有していた八木家が、大きな公園を整備し、仙台市に寄付して以来、八木山という地名が仙台市民に親しまれるようになったのです。

この八木家は、もとは仙台城下大町で化粧品などを商う紅屋という商家でした。代々の当主が「久兵衛」を名乗ったことから「紅久」とも称されたこの店は、城下の中心地で商売していたものの、借家で、江戸時代はとくに目立った存在ではなかったようです。

八木家を大きく発展させたのは、嘉永二（一八四九）年生まれの四代目久兵衛でした。明治五（一八七二）年に二十四歳で家業を継いだ時、八木家は厳しい経営状況に置かれていました。家業を立て直すべく久兵衛は、朝は鶏が鳴く頃には仕事を始めるなど、人一倍の努力を重ねて次第に店を発展させ、明治十五年の「宮城県人物見立」という番付に「唐糸商　八木久兵衛」と記されるほど、店の評判を高めることに成功したのです。

久兵衛の成功は、長者番付でも確認できます。明治十五年に仙台で第二十九番目に位置していた久兵衛は、明治二十四年には仙台市内の七番目へと大きく飛躍しています。久兵衛は一代にして仙台有数の資産家となったのです。

醸造業での発展

このように八木久兵衛が事業に成功した大きな要因は、醸造業への進出でした。

仙台の名産品として近年しだいに注目を集めている仙台味噌が、もともとは江戸（東京）でその名が高まったものであることは、以前にも紹介しました。明治時代に入って旧仙台藩主伊達家が味噌の製造、販売を企業化したのですが、伊達家直営の経営は順調ではなく、それを引き継いだのが八木久兵衛らでした。

久兵衛は、すでに明治十七年から仙台で味噌と醤油の製造、販売を手がけていましたが、伊達家から東京での経営を譲渡されたことにより、八木家の醸造業は大きく発展することになったのです。さらに久兵衛は味噌醸造用の機械を考案し、品質を落とすことなく、大量生産することに成功します。これは、製造の過程で発行させた豆を潰す際に、従来は人が足で豆を踏んでいたのを機械化したもので、専売特許権を得ることができたそうです。

久兵衛はまた、東日本で鉄道敷設を行っていた日本鉄道へ積極的に投資し、このことも、大きな利益をもたらしたと言われています。

実業界のリーダーへ

こうして仙台有数の実業家としての地位を築いた八木久兵衛は、明治二十二年から市会議員となり、さらに明治三十八年には仙台商業会議所の会頭に就任し、仙台経済界のリーダーとなりました。これと前後して、宮城貯蓄銀行や七十七銀行の頭取、仙台瓦斯株式会社の社長となった久兵衛は、大正七（一九一八）年には貴族院議員にも選出されています。

久兵衛が頭取に就任した当時の七十七銀行は、厳しい経営状況に置かれていましたが、久兵衛は重役の中村梅三らと経営の建て直しに尽力し、「米の七十七」と称されたように、地主層への融資を積極的に行うことにより、銀行の再建に成功したのです。

仙台経済界の指導者となった久兵衛は、その資産を公共のために提供することを惜しみませんでした。その最大のものは、仙台市が進めていた市電建設への寄付、そして「八木山」でした。

明治維新後に旧仙台藩士の共有財産となった越路山は、国に一時期没収されたこと、樹木の濫伐が行われたことなどから、荒廃が進んでいました。こうした状況を憂えた久兵衛は、越路山の総合開発を企図し、買収に着手します。久兵衛は開発に着手する前に、大正十二年に没しますが、その志は五代目に引き継がれ、公園整備から住宅地建設と開発が進められました。こうして八木山は、仙台の都市的発展を支える重要なエリアとなったのです。

八木久兵衛が会頭だった頃に使われていた仙台商業会議所の建物。新伝馬町（現在の中央通りクリスロード商店街）にあった

仙台市史

最新巻発売　通史編9 現代2

政令指定都市へ飛躍した仙台の軌跡をたどる

◆A5判　635頁　オールカラー　◆定価3000円（本体2858円）

広瀬川を渡る開業当時の新幹線 1982年

お求め先　県内主要書店・仙台市博物館／㈱宮城県教科書供給所　TEL.022-235-7181　FAX.022-235-7183

お問い合わせ先　仙台市博物館市史編さん室　〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地　TEL.022-225-3074